

令和3年度

「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」に基づく

宮城教育大学特別聴講学生募集要項

本学は、大学・短期大学・高等専門学校間の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に対して多様な学習機会を提供することを目的とした「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」に基づき特別聴講学生を募集する。

1. 履修可能な授業科目

科目区分	授業科目名	単位数	担当教員名	対象学年	授業時間	使用教室	開設時期	受入れ人数	カテゴリー分類	授業内容及び試験方法
基盤教養科目	歴史学入門	2	堀田 幸義	全	火-4	未定 (対面予定)	前期	制限なし	2	シラバス参照
	人間と思想	2	川崎 惣一	全	木-3	未定 (対面予定)	前期	制限なし	7	シラバス参照
	数学の世界	2	田谷 久雄	全	月-2	未定 (対面予定)	後期	制限なし	9	シラバス参照
	人間と音楽	2	小塩さとみ	全	木-1	未定 (対面予定)	前期	制限なし	8	シラバス参照

2. 出願条件

本協定に参加している大学・短期大学・高等専門学校の本科4・5年及び専攻科として在学している学生とする。

3. 出願手続

「特別聴講学生入学願書」を、指定された日時までに所属大学・短期大学・高等専門学校の担当窓口へ提出すること。

4. 受入れ可否の通知

所属大学・短期大学・高等専門学校を通じて4月下旬（前期）、9月下旬（後期）までに通知する。

5. 聴講手続

受入れを許可された者は、指定された日時までに、宣誓書（本学所定用紙）を提出すること。

6. 授業料等

入学料、授業料は徴収しない（放送大学学生を除く）。ただし、履修する科目によって実費相当の経費が必要になる場合がある。

- 放送大学の学生が履修する場合の授業料：1単位当たり14,800円

7. 受入れ期間

履修する授業科目が開講される学期又は年度とし、1年以内とする。

8. 授業内容及び試験の実施方法

- ① 授業内容については、シラバスを参照すること。なお、シラバスは、ホームページ (<http://www.miyakyo-u.ac.jp/>) でも参照できる。
- ② 本学では、定期試験期間を設けていないので、授業担当教員が授業の進行状況等を見ながら適当な時期に試験等を行う。
- ③ 疾病その他の止むを得ない理由により、追試験を願い出る場合は、当該授業科目の試験日から7日以内に所属大学を經由して申し出ること。

9. 単位の認定

本学からの成績通知に基づき、所属大学・短期大学・高等専門学校において認定される。

10. 授業時間割

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～ 10:20	10:30～ 12:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50

11. 本学施設の利用

履修上必要な施設・設備（附属図書館、食堂等）を利用することができる。なお、通学する際は、本学が発行する特別聴講学生証及び所属大学・短期大学・高等専門学校発行の学生証を携行すること。

12. 通学方法

地下鉄東西線「八木山動物公園」行きに乗車し、「青葉山」駅下車
（「仙台」駅～「青葉山」駅は約9分、「青葉山」駅「北1出口」から大学正門まで徒歩約7分）

13. 本学の所在地及び問い合わせ先

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149
宮城教育大学教務課教務企画係 TEL: 022-214-3654

14. その他

本学の学年暦は次のとおりである。

- 前期授業・・・・・・・・・・・・ 4月12日（月）～ 8月 6日（金）
ただし、8月3日（火）は月曜授業日とする。
- 健康診断に伴う休講・・・・・・・・ 4月26日（月）
- 夏季休業・・・・・・・・・・・・ 8月10日（火）～ 9月30日（木）
- 後期授業・・・・・・・・・・・・ 10月 1日（金）～12月24日（金）
1月11日（火）～ 2月 4日（金）
ただし、2月3日（木）は月曜授業日とする。

冬季休業・・・・・・・・・・12月27日(月)～1月7日(金)
大学入学共通テストに伴う休講
1月14日(金)午後

令和3年3月 宮城教育大学教務課教務企画係

《 提供科目一覧中の「カテゴリー分類」凡例 》

分類番号	カテゴリー名
1	言語（外国語・日本語）
2	文学・歴史・文化
3	国際関連
4	医療・福祉・健康
5	キャリア開発
6	教職関連科目
7	法律・政治・経済・社会
8	芸術・体育
9	情報・数学・理科
10	生活・環境
11	遠隔授業
12	集中講義

1～12に該当しないものは番号無（空欄）

講義コード	2A412
講義名	歴史学入門
シラバス担当教員	堀田 幸義
代表教員（成績担当教員）	堀田 幸義
授業担当教員	堀田 幸義
履修対象学年	全
単位数	2
毎週授業時間数	(2)
授業形態	講義
定期時間割	前期 火曜日 4時限 227番教室
授業概要	江戸時代に生きた人々はどのような生活を送っており、彼らの日常的生活世界へ目を向けることで、如何なる歴史像が見えてくるのか。歴史学における社会史的な考え方について押さえた上で、日本の近世社会における生活文化全般について講義していく。
授業の到達目標	日本史に関する基本的な知識を身につけるとともに、ある時代に生きた人々の生活や考え方について深く掘り下げることを通じて、歴史を多面的・多角的に見る眼を養うことが目標である。
授業計画	<p>第1回：歴史教育と歴史を学ぶ意味</p> <p>第2回：社会史の視座から歴史を見るということ</p> <p>第3回：戦国の村から近世の村落へ</p> <p>第4回：近世村落と「家」</p> <p>第5回：小農民の「家」と子宝意識の誕生</p> <p>第6回：子どもを産み育てる百姓たち</p> <p>第7回：近世村落における教育のあり方とは</p> <p>第8回：近世寺子屋教育の普及と近代学校教育</p> <p>第9回：結婚する百姓、離婚する百姓</p> <p>第10回：「家」を継ぐということ</p> <p>第11回：情報を集め活用する百姓たち</p> <p>第12回：近世百姓の生業と文化交流</p> <p>第13回：近世社会における老いと養生論</p> <p>第14回：扶養・介護と死から見る近世社会</p> <p>第15回：授業のまとめとテスト</p>
準備学修の内容と必要な学修時間（目安）	<p>【予習】</p> <p>・毎回の授業前には、事前に配付した史料を熟読し歴史用語等を調べておくこと（45分）。</p> <p>【復習】</p> <p>・毎回の授業後には、配付資料やノートにより講義で得た知識を確認すること（45分）。</p>
成績評価の方法	<p>①平常点（参加の姿勢等）30%</p> <p>②期末試験（1回／ただし、授業回数$\frac{2}{3}$以上の出席を以て受験資格を与える）70%</p>

成績評価は、①・②の結果により5段階評価でつける。

教科書・参考書	
【教科書】 ・五味文彦他著『詳説日本史』（山川出版社、高等学校日本史教科書、800円〈非課税商品〉） ただし、『詳説日本史』は授業内容を日本史の流れの中で確認するために使用するものとし、別途、レジュメを配付する。	
【参考書】 ・随時紹介する。	
履修に当たっての留意事項・メッセージ 授業評価アンケートへの返答	単に単位取得だけを目的とするのではなく、講義内容から多くを学び取ろうとするような自主的・積極的な態度で授業に臨んで欲しい。授業評価アンケートで好評だった学生からの質問に次回の授業冒頭で答えるという点については今後も継続して行う。

講義コード	2A363
講義名	人間と思想
シラバス担当教員	川崎 惣一
代表教員（成績担当教員）	川崎 惣一
授業担当教員	川崎 惣一
履修対象学年	全
単位数	2
毎週授業時間数	(2)
授業形態	講義
定期時間割	前期 木曜日 3時限 230 番教室
授業概要	<p>私たちが生きていくなかで出会う主要な哲学的諸問題について、現代の日本社会が抱えるさまざまな問題を考慮に入れつつ、多面的に考察します。さまざまな哲学者や思想家たちの文献を参照しながら、それらをヒントにしつつ、自分自身の考えを掘り下げてもらうとともに、哲学的諸問題について考察を深めます。</p> <p>なお、授業中に計2回、所定のテーマについて小論文という形で自分なりの考えをまとめてもらいます。</p>
授業の到達目標	<p>人間が生きていくなかで出会う主要な哲学的諸問題について、基本的な知識や考え方を身につけ、自分なりに考えを深められるようになる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション なぜ思想を学ぶのか 2. 自己 「じぶん」とはどのような存在か 3. 孤独 人間にとって孤独は何をもたらすか 4. 身体 私と身体との関係はどうなっているか 5. 世間 世間とは何か 6. 時間 時間はどのように経験されるか 7. 科学 技術は人類を幸福にするか 8. これまでのまとめ／第1回記述テスト 9. 死 死とは何か 10. 愛 愛するとはどういうことか 11. 教育 人は何のために教育するのか 12. 道徳 道徳は何のためにあるのか 13. 幸福と不幸 幸福とは何か／人生の苦しみに意味はあるか 14. 生きがい 人は何のために生きるか 15. 学期のまとめ／第2回記述テスト
準備学修の内容と必要な学修時間（目安）	<p>【予習】（60分）</p> <p>それぞれの回の内容に関して、身の回りで該当する事例を探し、それらに対する自分なりの意見やアイデアをメモしておくこと。</p> <p>【復習】（60分）</p> <p>それぞれの回に学んだ内容を振り返り、ポイントを整理しておくこと。</p> <p>自分なりの意見やアイデアをまとめて、メモしておくこと。</p>

<p>関連する文献資料等にどのようなものがあるか調べ、できるだけ目を通しておくこと。</p>	
<p>成績評価の方法</p>	<p>毎回、授業終了後に提出してもらう課題が30% 2回の記述テストの成績が70% (35%×2)、以上の合計で評価します。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>教科書は用いません。毎回、プリントを配布する予定です。 高校の「倫理」の教科書・用語集・参考書があると便利です。</p> <p>この授業では山川出版社の『倫理用語集』を参照することが多いので、何か1冊あげてほしい、というのであれば、この『倫理用語集』をおすすめしておきます。教員採用試験や公務員試験などにも活用できる、便利な本です。</p>
<p>履修に当たっての留意事項・メッセージ 授業評価アンケートへの返答</p>	<p>世界史や思想史の基本的な知識については、講義のなかで詳しく解説できないこともありますので、原則として、自分で予習・復習しておいてください。</p> <p>第1回記述テストの答えは、採点後にコメントをつけて返却します。</p> <p>「考えるのって楽しいね!! (Thinking is fun!!)」ということを実感してもらえると嬉しいです。</p>

講義コード	2A462
講義名	数学の世界
シラバス担当教員	田谷 久雄
代表教員（成績担当教員）	田谷 久雄
授業担当教員	田谷 久雄
履修対象学年	全
単位数	2
毎週授業時間数	(2)
授業形態	講義
定期時間割	後期 月曜日 2時限 233 番教室
授業概要	
数学のいくつかのテーマについて講義する。	
授業の到達目標	
授業で扱った数学のテーマのいくつかについて興味・関心を持ち、理解したことを適切に表現できることを目標とする。	
授業計画	
Classroomコード：6su5pyw	
1. 数学トピックス（1）集合	
2. 数学トピックス（2）写像	
3. 数学トピックス（3）全単射	
4. 数学トピックス（4）濃度	
5. 数学トピックス（5）同値関係	
6. 数学トピックス（6）除法定理	
7. 数学トピックス（7）倍数の集合	
8. 数学トピックス（8）倍数の和の集合	
9. 数学トピックス（9）多変数一次不定方程式	
10. 数学トピックス（10）約数の性質	
11. 数学トピックス（11）ユークリッドの原理	
12. 数学トピックス（12）素数の性質と素因数分解	
13. 数学トピックス（13）数の合同	
14. 数学トピックス（14）合同式	
15. 補足とレポート問題出題または試験	
準備学修の内容と必要な学修時間（目安）	
【予習】	
・この講義では特に予習は必要ありませんが、数学 I および数学 A は既習事項とします。（0分）	
【復習】	
・毎回授業後に、講義の内容をノートにより確認し、課題の間（各自確認の項目を含む）を検討し、ノートに解答や確認した内容を整理しておくこと（90分）	
成績評価の方法	
講義への取り組み 20%，レポート課題 30%，最終試験または最終課題 50%により評価する。	
教科書・参考書	

参考書

1. 理工基礎代数系, 佐藤篤・田谷久雄著, サイエンス社
2. 集合と位相への入門, ユークリッド空間の位相, 鈴木晋一著, サイエンス社

履修に当たっての留意事項・メッセージ 授業評価アンケートへの返答	やさしい講義ではないから、毎回しっかりと復習し、不明の点は次回の講義時間などにきちんと質問すること。
関連リンク	Google Classroom クラスコード : 6su5pyw
関連リンクURL	
関連リンク先説明	

講義コード	2A364
講義名	人間と音楽
シラバス担当教員	小塩 さとみ
代表教員（成績担当教員）	小塩 さとみ
授業担当教員	小塩 さとみ
履修対象学年	全
単位数	2
毎週授業時間数	(2)
授業形態	講義
定期時間割	前期 木曜日 1時限 720 番教室
授業概要	
<p>特定のジャンルの音楽を取り上げ、その音楽が生み出された時代や文化の背景を考えながら音楽とは何かについて考察する。</p>	
授業の到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が接してきた音楽文化について、その歴史を知り、またより広い視野から眺めることで、これまでの自分の音楽体験を客観的に位置づけること。 2. 日本における多様な音楽ジャンルに接し、日本音楽に関する基礎的な知識を深めること。 3. 音楽と社会の関係について、具体的な事例に基づきながら考える方法を身につけること。 	
授業計画	
<p>受講生が40名以下の場合には対面で、それを超える場合には、オンライン（リアルタイム）またはオンデマンド方式で行います。履修人数を把握するため、履修を考えている人は、4月12日（月）までにGoogle Classroomに登録してください。初回の授業を対面とするか、オンラインにするかの連絡を4月13日（火）にGoogle Classroomでお知らせします。</p> <p>今年度の授業では「日本の音楽」を取り上げます。日本の音楽の特徴は何か、時代により日本の音楽はどのように変化しているのか、などの問いを考えていきましょう。音楽は、社会や文化のあり方と密接に関係しながら、変化していきます。音楽を考えることによって日本の社会や文化について考え、また日本の社会や文化について考えることで日本の音楽についてより深く理解することがこの授業の目標です。</p> <p>授業は、映像資料や音資料を使用して、音楽を聞きながら進めていく形をとります。授業中に音楽を聞く場合、ふだんの聞き方とは異なる分析的な聞き方が必要です。自分が興味をもたない音楽についても、その音楽の特徴は何か、自分がふだん聞く音楽と何が違うのかなどを考えながら聞きましょう。</p> <p>授業で扱う主要テーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の音楽とは何か？ 2. 日本の音楽の歴史を考える 3. 社会の仕組みとの関係から音楽を考える 4. 日本の音楽？西洋の音楽？ 	

5. 音楽を伝える仕組み
6. これからの日本の音楽を考える

最終回に期末試験を実施します。

準備学修の内容と必要な学修時間（目安）

初回の授業で、授業計画を配付します。毎回の授業に出席する前に、

- 1) 前回の授業までに学んだ内容の確認
- 2) 次の授業のテーマについて、自分が知っているかを考えるとともに、どのような話題が展開するかを予測する
- 3) 特に関心の高いテーマについては、自分なりの調べ学習を行う

という3点を準備する（15～30分）。また授業終了後に、学習した内容に関連する書籍を探して読んだり、関連する楽曲を探して聴く活動を行う（60～80分）。

成績評価の方法

平常点2割、レポート2割、期末試験6割で総合的に評価する。
出席点は授業への参加態度を含む。

教科書・参考書

主要参考書（★は大学生協で販売）

- ★小塩さとみ『日本の音、日本の音楽』、東京：アリス館、2015年。
- 片山杜秀『鬼子の歌 偏愛音楽的日本近現代史』東京：講談社、2019年。
- 呉屋淳子『「学校芸能」の民族誌：創造される八重山芸能』、東京：森和社、2017年。
- 星野紘『村の伝統芸能が危ない』、東京：岩田書院、2009年。
- 菊池清麿『日本流行歌変遷史』、東京：論創社、2008年。
- ★月溪恒子他『現代日本社会における音楽』、東京：放送大学教育振興会、2008年。
- 徳丸吉彦（監修）、増野亜子（編）『民族音楽学12の視点』、東京：音楽之友社、2016年。
- 戸ノ下達也；長木誠司（編）『総力戦と音楽文化』、東京：青弓社、2008年。
- 戸ノ下達也『音楽を動員せよ』、東京：青弓社、2008年。
- 戸ノ下達也『日本の吹奏楽史 1869-2000』、東京：青弓社、2013年。
- 釣谷真弓『おもしろ日本音楽の楽しみ方』、東京：東京堂出版、2002年。
- 釣谷真弓『おもしろ日本音楽史』、東京：東京堂出版、2000年。

上記以外の参考書は必要に応じて授業の中で指示します。参考書を購入するかどうかは受講生の判断に任せます。

履修に当たっての留意事項・メッセージ 授業評価アンケートへの返答

この授業では、受講生が積極的に授業に参加し、授業内容にもとづいて思考することを求めます。音楽を日常的に聞いたり演奏したりする人も、音楽について考える経験は意外と少ないのではないのでしょうか。この授業で、音楽について考えるおもしろさをぜひ体験してください。

関連リンク

Google Classroom クラスコード：fnbqc5h

関連リンクURL	
	https://classroom.google.com/c/MjQ4NDY1NTcwMjkz?cjc=fnbqc5h
関連リンク先説明	履修者は必ず登録すること